

	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組状況	評価	関係者評価	次年度へ向けて
① 組織的な学校運営	【学校教育ビジョンの具現化】 学校教育ビジョンの「本年度の重点」を理解し、分掌に応じて目標設定をする。さらに設定した目標の実現に向けて日々努力する。	【努力指標】 教職員は「本年度の重点」を受けて面接シートの目標や学校経営案を設定し、実現することができたと感じている。	教職員自己評価の割合の合計 A 90% (但し、あてはまるかどうかという場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	各職員が面接シートにおいてチャレンジ目標として設定し、中間面談で進捗状況を点検しながら実現に向けて取り組んできた。 面接シート、教職員自己評価の結果 7月 92% (④8%, ③84%, ②8%) 12月 100% (④20%, ③80%) 2月 100% (④42%, ③58%) だんだん高くなってはいるが④評価より③評価が多いので	B	運営面では妥当なところであろう。全体的に、どの具体的な成果も、達成可能な児童を育てたか、面接で確かめたい。面接がどうか、明確でわかりやすくなっている。 全体的に評価がよくなり先生方の努力、団結力の素晴らしさが窺われる。教職員自己評価は先生方の主観なので、謙虚さの現れのように思う。	各自の設定する目標が抽象的なものではなく、達成可能な児童を育てたか、面接で確かめたい。面接がどうか、明確でわかりやすくなっている。 また、次年度は各取組の達成度判断基準を上げ、さらなる高みをめざしていきたい。
	【いじめ問題等への対応】 兆候を見逃さず、情報を共有し、いじめ等の問題に対して、早期発見と迅速な対応を組織的に行う。	【努力指標】 よりよい人間関係を構築するための学級づくりを行い、児童アンケートや日々の情報共有により、いじめの芽を見逃さず、速い対応に努めている。	早期発見、迅速な対応に努めた教職員の割合 A 100% (但し、あてはまるかどうかという場合はB) B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	全職員による情報共有と児童理解の深まりが未然防止・早期発見・早期対応につながった。年3回のいじめアンケートの結果、認知件数は0件であった。人間関係のトラブルについてはその都度指導してきた。 教職員自己評価の結果 7月 92% (④45, ③55) 12月 91% (④36, ③55, ②9) 2月 100% (④54, ③46) 7月12月は③評価が多かったが2月は④評価が多い。	A	2学期末に比べていじめ未然防止への対応の評価がよくなっている。結果に対して自信をも継続して努力をお願いしたい。	今後も、いじめアンケートや面談週間の取組を基軸に、組織的に迅速誠実公平な対応に努めていく。
② 確かな学力の育成	【学力向上】 わかる授業づくり、朝学習や水曜補習タイムにおける基礎的事項の習熟や活発な学習指導に努め、基礎的学力の充実、活用力の向上を図る。	【成果指標】 取組の結果、基礎学力が充実し、活用力が向上している。	国語・算数の単元テストの平均点が80%以上、 CRTの達成率が全国平均より5%以上であった学年の割合 A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	授業改善や補習タイムを活用した学習指導の継続、ノート指導や「はちろり漢字・算数週刊」の取り組みと評価などを通じて基礎基本、活用力の向上に取り組んできた。 判断基準に照らして達成した学年の割合 7月 A 単元テスト100% 12月 A 単元テスト100% 2月 A CRT100% 全学年で国数ともに基準を越えた。	A	児童アンケートより99%の児童が「授業はわかる」と答えており、児童が学ぶ楽しさを感じていることは素晴らしい。考えを発表したり、深めることが自己有用感や達成感につながるものであればとても良いことである。	平均点は、80点以上であるが、単元や分野によっては、基準の80点を下回るものがある。課題と取組について共通理解した上で、再度指導を行い定着を図っていく。
	【学び合い、考えを深める授業づくり】 「国語科「読むこと」領域において、説明文教材の指導法の向上を図り、児童の主体的な学びのある学習活動を推進し、確かな学びにつなげる。	【満足度指標】 考えを深める児童主体の学び合いの工夫や、学んだことを実感できる振り返り活動に取り組み、児童が学びを深められたと感じている。	学び合いの授業で考えが深まったと感じる児童の割合 A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	学校研究を通して、考えを深める児童主体の学び合いの工夫や、学んだことを実感できる振り返り活動に取り組んできた。 児童アンケートの結果 7月 A 96% (④57, ③39, ②4) 12月 A 97% (④64, ③33, ②2, ①1)	A		昨年度に引き続き高い自己評価だが、実態としてまだ自分の表現が出来るという児童もいるので、自分の考えを持つこと、ペアやグループで交流し考えを深める授業を学校研究の重点に位置づけ取り組んでいきたい。
	【読書の質の向上】 学年「おすすめの本」の指定や、図書司書と連携したブックトークや良書の紹介などを通して、読書の質の向上を図る。	【成果指標】 学年のおすすめの本10冊を読むことができる。	学年「おすすめの本」10冊を読んでいる児童の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	司書教諭、学校図書館司書、担任の連携した指導、月ごとに完読者の表彰、掲示を行うことにより意欲化を図り、全児童が完読した。 読書記録による結果、読み終えた児童 7月(4冊以上) A 100% 12月(8冊以上) C 75% 2月(10冊以上) A 100%	A	学び合いの授業が進んでいること、今年度の学力の向上に関連があるのか、検証してさらに進めてほしい。	今後も学校図書館司書との連携を基に読書の見直しを行い、良書に親しむ機会を増やしていく。
	【家庭学習の充実】 強化週間を設け、家庭学習の充実を図る。宿題の量や自主勉強の充実にも努め、学習時間の量と質を充実させる。高学年は、学習内容のモデル指導し毎日自主的学習に取り組ませる。	【家庭学習指標】 家庭学習強化週間を設け、学年×10分以上の家庭学習と自主勉強ができている。	強化週間に学年×10分の学習時間を達成した児童の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	3年生以上の自学ノート全児童分を掲示したり、保護者への協力依頼、事後は取組結果や状況、感想のお便りなどを通して、継続的な啓発や児童への指導より家庭学習時間は定着している。目標を持って取り組む児童も増えてきた。 家庭学習強化週間の結果、達成できた児童 7月 A 93% 12月 A 93% 2月 A 94%	A		基礎基本の確実な定着と内容の充実に向け、今後も児童に働きかけたいとともに、保護者にもお便り等で協力を働きかけたいことを継続する。
③ 豊かな人間性の育成	【生徒指導の3機能を活かした学級集団づくり】 「生徒指導の3機能を生かした授業づくり」を共通実践し、Q/U検査結果より配慮を要する児童への共通理解を図り、自他を大切に学級集団づくりに努める。	【満足度指標】 生徒指導3機能を意識した日常の働きかけにより、児童が学校生活に安心感や楽しさを感じている。	学校生活が楽しいと感じている児童の割合 A 90%以上 (但し、あてはまるかどうかという場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒指導3機能を意識した授業について教師の自己点検を毎月行い、課題を明確にして取り組んできた。またQ/U検査の結果を生かして支援策を講じたが、まだ7人の児童が楽しさを感じられていない。 児童アンケートの結果 7月 A 95% (④63, ③32, ②5) 12月 A 95% (④64, ③31, ②4, ①1)	A	授業を中心に、児童が生き生きと学校生活を送っている様子が見える。全体的に楽しく学校生活を送っており素直で元気である。 児童アンケートで悩み事を相談する人がいないという児童に対して目を離さず見守っていく必要がある。	Q/U等を活用しながら、授業や行事を通して、継続して一人一人がクラスの居場所を形成し、また学級の係や当番活動も充実させ、役割をしっかりと担っている。全職員で情報共有し共通理解のもと支援していく。
	【道徳教育の充実】 道徳の時間を要として、家庭との連携やG/Tの活用により道徳的心情を深め、道徳教育の充実を図る。	【努力指標】 人と地域を生かした道徳教育推進事業の成果を活かし、家庭との連携やゲストティーチャーを活用した道徳の授業により道徳的心情を深めている。	年間2回以上、保護者や地域人材を活用した道徳の授業を行った教員の割合 A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	家庭との連携やゲストティーチャーを活用した道徳の授業を進め、道徳的心情を育んできた。 教職員自己評価の結果 7月(10回以上) C 50% 12月(10回以上) B 72% 2月(2回以上) A 100%	A	学童クラブで、言葉遣いが大変悪い一部の学年の男子児童がいる。その態度がけしこくになること、相手手を傷つけることに気が付かせていきたい。個別に配慮が必要な児童についても学校と情報共有、相談しながら指導していきたい。	過去のゲストティーチャーを活用した道徳教育の実践を紹介したり、町の先生リストを作成したりして、積極的計画的に活用できる体制を整える。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに、児童会や委員会、学級活動、学校行事等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努める。	【満足度指標】 児童会、委員会、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたと感じている。	よりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感じている児童の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童会、委員会、学級活動、学校行事等を通して、目標をもたせ、活動後の振り返りにより、さらによりよい学校・学級づくりに取り組めるよう働きかけを継続してきた。 児童アンケートの結果 7月 A 92% (④57, ③35, ②6, ①2) 12月 A 95% (④63, ③32, ②3, ①2)	A	道徳教育の充実については、自主性を高める機会として、地域の人材活用は理想的にはよいが、人材の発掘、活用には難しい面もあるだろう。	次年度も運動会や植栽祭りなどの行事を、高学年を中心に、自主性を高める機会として指導する。また学級の係や当番活動も充実させ、役割をしっかりと担っていることでも自主性主体性を育てていく。
④ 健全な体性の育成	【健康早起きの習慣化】 健康な生活を創り、元気よく学校生活を送るために、健康早起きの大切さを理解させ、家庭と連携し、生活習慣の改善を図る。	【成果指標】 児童は「健康早起き朝ごはん」の大切さを理解し、1～3年生は21時まで、4～6年生は22時まで寝ることができている。	げんきっカードの取組で健康時刻を守れた児童の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	生活習慣の改善に向けて、保護者と連携しPTA学級委員会と取り組んだり、健康早起きの大切さを保健指導や保健便りや理解させ、毎月のげんきっカードで点検してきた。改善が困難な児童には養護教諭より個別指導も行ってきた。 元気っカードの結果 7月 A 89% (4～7月の平均) 12月 A 83% (9～12月の平均) 2月 B 79% (1, 2月の平均)	B	生活習慣について、教職員の努力はうかがえる。今後一層、保護者への理解と協力体制作りが望まれる。ゲームへの依存度も関連するかもしれない。	毎日児童会員が就寝時刻を守れるよう学級活動や保健の授業等で意識を高め、個別指導が必要な場合は保護者との連絡を深めて啓発していく。
	【体力の向上】 体力テストで低評価であった投・跳の向上のためにスポチャレ「ソフトボール」と「8の字跳び」に全校で取り組み、体力向上を図る。	【成果指標】 児童はスポチャレに積極的に取り組んでいる。	スポチャレに積極的に取り組んだ児童の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	前期は体育館工事で十分取り組めなかったが、後期は、スポチャレに親しめるように、掲示物等を工夫したり、体育委員会主催で、スポチャレ大会を実施したりして目標をもたせ、意欲的に取り組ませることが出来た。 児童アンケートの結果 7月 B 89% (④49, ③40, ②10, ①1) 12月 A 93% (④56, ③37, ②4, ①3)	A	習い事もたくさんある中で健康早起きを推奨していくことは難しい面もあるが、今後も家庭と連携してしっかりと取り組むこと。	今後も体力の向上に向けて決めやすき事項をふまえて町全体で進められるように、取組を工夫し展開していく。
⑤ 家庭・地域との連携	【たちはな夢プランの推進】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業を企画し、生き方にふれることで夢や目標を育てていく。	【満足度指標】 たちはな夢プランの特別授業を通して児童が学びを深め夢や目標を持っている。	特別授業の学習や活動を通して夢や目標、生き方にふれて考えを深めた児童の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	各学年のふるさと学習や、生き方学習、萬狂言や県立美術館出前講座等を通して、夢や目標に向かってがんばっている人との出会いから、児童は夢や目標をもって生きていることの素晴らしさを学んできた。 特別事業実施時のふりかえり作文の記述 児童アンケートの結果 7月 A 95% 12月 A 97% (④76, ③21, ②2, ①1)	A	ほぼ100%を示す保護者アンケートの回収率は、学校の教育活動に対する保護者の信頼感があり、互いに協力し合う子ども達を育てている結果である。あいつは今後も続けていく大切な取組である。	町内の様々な人から、働くことについての夢や努力を聞く機会、体験を通して学ぶ機会を今後も継続して行い、児童の夢や目標を考えさせたい。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人にも進んで明るいあいつができる児童を育てる。	【満足度指標】 家庭・地域や学校で、児童は進んで明るいあいつができている。	進んで明るいあいつができる児童 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	進んで明るいあいつができる児童が増えた。 児童アンケートの結果 7月 A 97% (④74, ③23, ②11) 12月 A 97% (④59, ③38, ②1, ①2) 保護者アンケートの結果 12月 B 85% (④30, ③55, ②14, ①1) 教職員自己評価の結果 2月 B 92% (④25, ③67, ②8)	A	明るい学校生活を送れているが、自分から進んで大きな声であいつをできるよう、今後も児童会の取組を活発にして意識づけしていく。	